

平成 20 年 7 月 29 日

各 位

会 社 名 富士電機ホールディングス株式会社
 代表者名 取締役社長 伊藤 晴夫
 (コード番号 6504 東証・大証・名証第 1 部・福証)
 問合せ先 経営企画担当ゼネラルマネージャー
 南 浩一
 (TEL 03-5435-7213)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 4 月 24 日に公表した業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

① 連結業績予想

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	400,000	500	500	△7,000	△9 円 79 銭
今回発表予想 (B)	384,000	△7,500	△8,000	△11,500	△16 円 09 銭
増減額 (B-A)	△16,000	△8,000	△8,500	△4,500	△6 円 30 銭
増減率 (%)	△4.0%	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期累計実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期累計)	399,611	538	1,459	△954	△1 円 33 銭

② 連結部門別売上高・営業利益予想

(単位：億円)

	売 上 高			営 業 利 益		
	当初計画	今回発表	増 減	当初計画	今回発表	増 減
電 機 シ ス テ ム	2,250	2,230	△20	△20	△20	±0
電 子 デ バ イ ス	1,040	900	△140	20	△60	△80
リテイルシステム	730	730	±0	10	10	±0
そ の 他	220	220	±0	5	5	±0
消 去 又 は 全 社	△240	△240	±0	△10	△10	±0
合 計	4,000	3,840	△160	5	△75	△80

2. 平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

① 連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	925,000	42,000	42,000	20,000	27円98銭
今回発表予想（B）	890,000	22,500	22,500	8,000	11円19銭
増減額（B－A）	△35,000	△19,500	△19,500	△12,000	△16円79銭
増減率（％）	△3.8%	△46.4%	△46.4%	△60.0%	△60.0%
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	922,172	35,883	35,808	16,792	23円49銭

② 連結部門別売上高・営業利益予想

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	前回発表	今回発表	増減	前回発表	今回発表	増減
電機システム	5,500	5,440	△60	225	200	△25
電子デバイス	2,350	2,020	△330	160	10	△150
リテイルシステム	1,480	1,480	±0	40	20	△20
その他	490	490	±0	15	15	±0
消去又は全社	△570	△530	+40	△20	△20	±0
合計	9,250	8,900	△350	420	225	△195

3. 修正の理由

(1) 第2四半期連結累計期間

電子デバイス部門は、売上高は産業向け半導体での在庫調整の長期化影響、ディスク媒体分野での第1四半期後半から実施した一部機種の切替えに伴う出荷数量の減少、一部顧客の生産・在庫調整の影響により当初計画を下回る見込みです。営業損益は、生産・出荷数量の減少影響や新機種立ち上げによる良品率の悪化により当初計画を大幅に下回る見込みです。

電機システム部門は、器具分野の市況低迷影響により、売上高は当初計画を下回る見込みですが、営業損益はプラント製品において国内民需分野向けを中心に堅調を維持し当初計画通りに推移する見込みです。

リテイルシステム部門は、売上高、営業損益ともに当初計画通りに推移する見込みです。

その結果、全体としては電子デバイス部門を主体に売上高、損益ともに前回発表値を下回る見込みです。

(2) 通期

今後の当社グループを取り巻く経済環境は厳しさを増しており、通期については、こうした環境変化に加え、第2四半期連結累計期間の業績予想を勘案し、売上高、損益ともに電子デバイス部門を主体として前回発表値を下回る見込みです。

電子デバイス部門は、産業向け半導体の市場環境の悪化、情報電源向け半導体の受注低迷およびディスク媒体での生産数量・出荷数量の減少により、売上高、営業損益ともに前回発表値を大幅に下回る見込みです。

電機システム部門は、器具分野の市況悪化の影響により、売上高は前回発表値を下回る見込みです。営業損益は器具分野の売上高の減少影響、素材高騰影響により前回発表値を下回る見込みです。

リテイルシステム部門では、売上高は前回発表通り推移しますが、素材高騰の影響により営業損益は前回発表値を下回る見込みです。

このような状況のなか、今後の当社グループの取り組みとしては、電子デバイス部門は、半導体分野で

は、工作機械業界などの産業分野の市況が低迷するなか、好調な省エネ・インフラ分野への拡販を図るとともに、需要に見合う生産体制への見直しを行い、徹底した経費削減に取り組んでまいります。また、ディスク媒体分野では、年末商戦に向けた需要の増加が見込まれており、E C C媒体などの高性能機種の展開によりシェア拡大に取り組んでまいります。

電機システム部門では、ドライブ分野を中心に機器・制御部門との統合効果の早期実現、同分野でのグローバル4極体制整備を加速するとともに、器具分野での国内外製造拠点の再編、グループ内再編などの構造改革の前倒しに取り組んでまいります。

以上の取り組みを通じ、通期業績予想の改善に積極的に努めてまいります。

【注記事項】

本資料における予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

以 上